

安定タイプの運用状況

※過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

＜基準価額・純資産の推移＞

2018年7月31日現在

基準価額	9,960 円
純資産総額	77億円

期間別騰落率

期間	ファンド
1か月間	+0.8 %
3か月間	+0.2 %
6か月間	-2.1 %
1年間	-2.0 %
3年間	----
5年間	----
年初来	-2.9 %
設定来	-0.4 %



※「基準価額（分配金再投資）」は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。

※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用（信託報酬）は控除しています（7ページ目の「ファンドの費用」をご覧ください）。

※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間とし、当該ファンドの「基準価額（分配金再投資）」を用いた騰落率を表しています。

※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

＜分配の推移＞

(1万口当たり、税引前)

決算期（年/月）	分配金
第1期 (17/06)	0円
第2期 (18/06)	0円
分配金合計額	設定来：0円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

＜主要な資産の状況＞

※比率は、純資産に対するものです。

組入ファンド別構成

ファンド名	比率
国内株式ファンド	3.2%
先進国株式ファンド	3.2%
新興国株式ファンド	3.2%
国内REITファンド	4.8%
先進国REITファンド	4.8%
先進国債券（為替ヘッジあり）ファンド	53.2%
新興国債券（為替ヘッジあり）ファンド	26.7%
コールローン、その他	0.9%
合計	100.0%

※比率の合計が四捨五入の関係で100%にならないことがあります。
 ※ファンド名は「（適格機関投資家専用）」を省略しています。
 ※為替ヘッジ付外債は、日本円に分類しています。

通貨別構成

通貨	比率
日本円	89.0%
米ドル	9.1%
ユーロ	1.1%
豪ドル	0.3%
英ポンド	0.3%
シンガポール・ドル	0.1%
香港ドル	0.1%
カナダ・ドル	0.1%
ニュージーランド・ドル	0.0%
その他	0.0%
合計	100.0%

＜ファンドマネージャーのコメント＞

※現時点での投資判断を示したものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。

【投資行動】

ほぼ基本配分比率通りの資産配分を維持しました。

【パフォーマンス】

日銀が長期金利上昇を容認するとの観測が広まったことなどから、先進国債券ファンド（為替ヘッジあり）がやや軟調となりましたが、先進国における好調な企業決算や新興国からの資金流出懸念後退などを受けて先進国株式ファンドや新興国株式ファンド、新興国債券（為替ヘッジあり）ファンドが上昇し、ファンド基準価額は月間で上昇しました。

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするためにワイエムアセットマネジメントにより作成されたものです。当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって投資元本が保証されているものではありません。当ファンドの取得をご希望の場合には投資信託説明書（交付目論見書）を販売会社よりお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上ご自身で判断ください。8ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

設定・運用



ワイエムアセットマネジメント

商号等

ワイエムアセットマネジメント株式会社
 金融商品取引業者 中国財務局長（金商）第44号

加入協会

一般社団法人投資信託協会

安定タイプの運用状況

組入ファンドの騰落率

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

投資信託証券（ファンド名）	運用会社名	主な投資方針	騰落率			
			1か月間	3か月間	6か月間	設定来
国内株式ファンド	大和証券投資信託委託	国内の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	+2.4%	-0.5%	-3.9%	+51.9%
先進国株式ファンド		日本を除く先進国の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	+5.3%	+6.4%	-0.5%	+54.4%
新興国株式ファンド		新興国の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	+6.4%	-1.8%	-11.2%	+52.3%
国内REITファンド		国内のリート市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	-0.6%	+2.3%	+2.6%	+9.0%
先進国REITファンド		日本を除く先進国のリート市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	+1.3%	+8.9%	+4.2%	+11.3%
先進国債券（為替ヘッジあり）ファンド		先進国通貨建ての債券を主な投資対象とし、日本を除く先進国の債券市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。	-0.3%	+0.1%	-0.3%	-4.8%
新興国債券（為替ヘッジあり）ファンド		新興国の国家機関が発行する米ドル建ての債券を主な投資対象とし、新興国の債券市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。	+2.1%	-1.1%	-4.7%	-2.3%

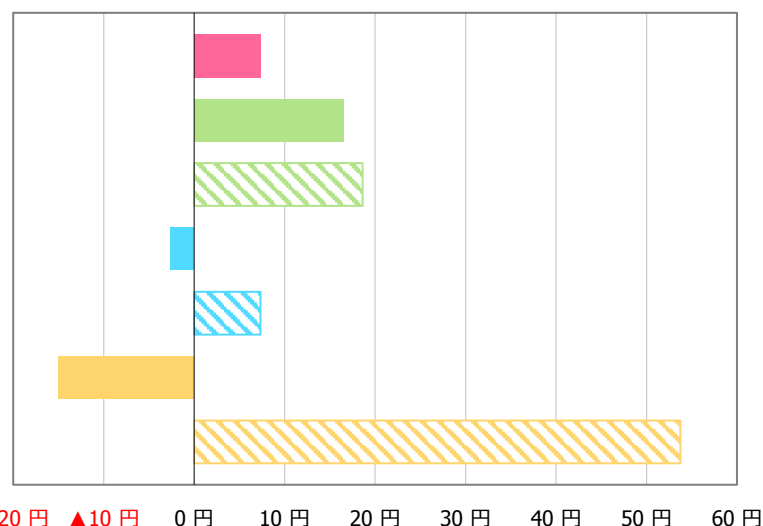
※ファンド名は「（適格機関投資家専用）」を省略しています。

基準価額の月次変動要因分解

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

2018年7月末の基準価額	9,960 円
2018年6月末の基準価額	9,884 円
変動額	76 円
内訳	合計

国内株式ファンド	7 円
先進国株式ファンド	17 円
新興国株式ファンド	19 円
国内REITファンド	▲3 円
先進国REITファンド	7 円
先進国債券（為替ヘッジあり）ファンド	▲15 円
新興国債券（為替ヘッジあり）ファンド	54 円
小計	86 円
分配金	0 円
信託報酬、その他	▲10 円

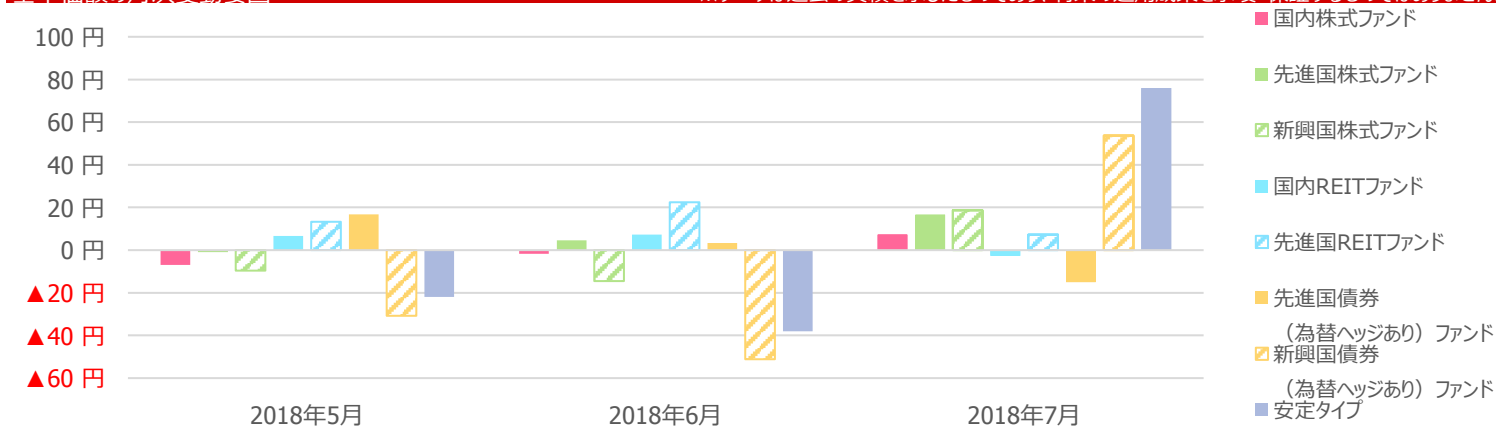


※「基準価額の月次変動要因分解」は、簡便法に基づく概算値です。

※ファンド名は「（適格機関投資家専用）」を省略しています。

基準価額の月次変動要因

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。



成長タイプの運用状況

※過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

「基準価額・純資産の推移」

2018年7月31日現在

基準価額	10,910 円
純資産総額	30億円

期間別騰落率

期間	ファンド
1か月間	+1.4 %
3か月間	+1.3 %
6か月間	-1.8 %
1年間	+0.5 %
3年間	----
5年間	----
年初来	-2.0 %
設定来	+9.1 %



※「基準価額（分配金再投資）」は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。

※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用（信託報酬）は控除しています（7ページ目の「ファンドの費用」をご覧ください）。

※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間とし、当該ファンドの「基準価額（分配金再投資）」を用いた騰落率を表しています。

※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

「分配の推移」

(1万口当たり、税引前)

決算期（年/月）	分配金
第1期 (17/06)	0円
第2期 (18/06)	0円
分配金合計額	設定来：0円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

「主要な資産の状況」

※比率は、純資産に対するものです。

組入ファンド別構成

ファンド名	比率
国内株式ファンド	8.3%
先進国株式ファンド	8.2%
新興国株式ファンド	8.3%
国内REITファンド	12.3%
先進国REITファンド	12.3%
先進国債券（為替ヘッジあり）ファンド	33.0%
新興国債券（為替ヘッジあり）ファンド	16.5%
コールローン、その他	1.1%
合計	100.0%

※比率の合計が四捨五入の関係で100%にならないことがあります。
 ※ファンド名は「（適格機関投資家専用）」を省略しています。
 ※為替ヘッジ付外債は、日本円に分類しています。

通貨別構成

通貨	比率
日本円	71.4%
米ドル	23.5%
ユーロ	2.9%
豪ドル	0.8%
英ポンド	0.7%
シンガポール・ドル	0.3%
香港ドル	0.2%
カナダ・ドル	0.2%
ニュージーランド・ドル	0.0%
その他	0.0%
合計	100.0%

「ファンドマネージャーのコメント」

※現時点での投資判断を示したものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。

【投資行動】

ほぼ基本配分比率通りの資産配分を維持しました。

【パフォーマンス】

日銀が長期金利上昇を容認するとの観測が広まったことなどから、先進国債券ファンド（為替ヘッジあり）がやや軟調となりましたが、先進国における好調な企業決算や新興国からの資金流出懸念後退などを受けて先進国株式ファンドや新興国株式ファンド、新興国債券（為替ヘッジあり）ファンドが上昇し、ファンド基準価額は月間で上昇しました。

成長タイプの運用状況

組入ファンドの騰落率

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

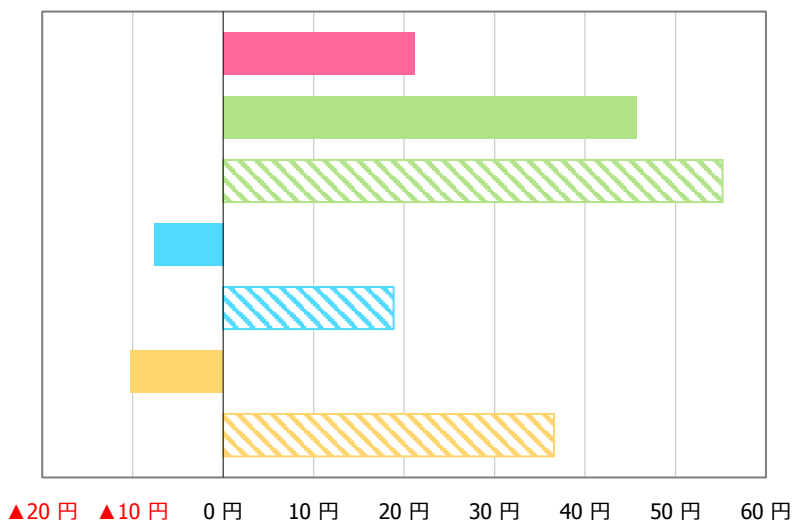
投資信託証券（ファンド名）	運用会社名	主な投資方針	騰落率			
			1か月間	3か月間	6か月間	設定来
国内株式ファンド	大和証券投資信託委託	国内の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	+2.4%	-0.5%	-3.9%	+51.9%
先進国株式ファンド		日本を除く先進国の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	+5.3%	+6.4%	-0.5%	+54.4%
新興国株式ファンド		新興国の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	+6.4%	-1.8%	-11.2%	+52.3%
国内REITファンド		国内のリート市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	-0.6%	+2.3%	+2.6%	+9.0%
先進国REITファンド		日本を除く先進国のリート市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	+1.3%	+8.9%	+4.2%	+11.3%
先進国債券（為替ヘッジあり）ファンド		先進国通貨建ての債券を主な投資対象とし、日本を除く先進国の債券市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。	-0.3%	+0.1%	-0.3%	-4.8%
新興国債券（為替ヘッジあり）ファンド		新興国の国家機関が発行する米ドル建ての債券を主な投資対象とし、新興国の債券市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。	+2.1%	-1.1%	-4.7%	-2.3%

※ファンド名は「（適格機関投資家専用）」を省略しています。

基準価額の月次変動要因分解

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

2018年7月末の基準価額	10,910 円
2018年6月末の基準価額	10,762 円
変動額	148 円
内訳	合計
国内株式ファンド	21 円
先進国株式ファンド	46 円
新興国株式ファンド	55 円
国内REITファンド	▲8 円
先進国REITファンド	19 円
先進国債券（為替ヘッジあり）ファンド	▲10 円
新興国債券（為替ヘッジあり）ファンド	37 円
小計	160 円
分配金	0 円
信託報酬、その他	▲12 円

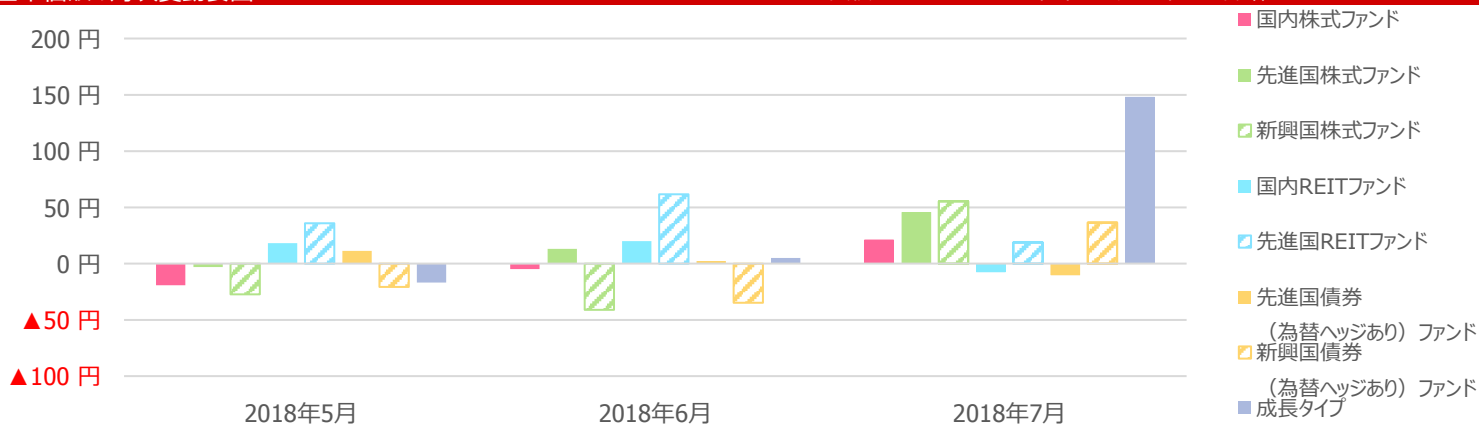


※「基準価額の月次変動要因分解」は、簡便法に基づく概算値です。

※ファンド名は「（適格機関投資家専用）」を省略しています。

基準価額の月次変動要因

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。



（国内株式）

国内株式市場は上昇しました。前半は米国による中国からの輸入製品に対する追加関税の発動を控え下落して始まりましたが、追加関税が発動された際の中国側の反応が想定より抑制的であったものの悪材料出尽くしとなったことや、為替が円安米ドル高で推移したことなどから上昇しました。後半は、トランプ米国大統領が米ドル高をけん制した一方で、米国とEU（欧州連合）の通商協議が融和的な結果になるなど強弱材料が入り交じったことにより一進一退で推移しました。

（先進国株式）

先進国株式市場は上昇しました。上旬は米国の好調な経済指標や4-6月期決算に対する期待感などから上昇基調でのスタートとなりました。その後は、米中貿易摩擦をめぐる不透明感が高まる場面もありましたが、企業決算が好調な滑り出しとなったこと、欧米間の貿易面での緊張緩和などが好感され、力強い展開が継続しました。

（新興国株式）

新興国株式市場は、全体としては上昇基調でした。米欧の貿易摩擦懸念の後退などからリスクテイクの動きが強まりました。内需が堅調なインド、産業支援策が好感されたインドネシア、米中向け食品輸出増が見込まれたタイなどは堅調でした。中道派が市場経済派の大統領候補と政策協定を結んだことが好感されたブラジルも堅調でした。一方、政府の経済政策が懸念されたトルコは軟調でした。

（国内リート）

国内リート市場は小幅に下落しました。中旬にかけては堅調な事業環境や長期金利の低位安定が意識され緩やかに上昇したものの、その後は、公募増資による需給悪化に加えて日銀の金融政策調整観測からの長期金利上昇もあり軟調な推移となりました。

（先進国リート）

海外リート市場は、ほぼ横ばいとなりました。米国では、米中貿易摩擦に対する警戒感や長期金利上昇などが重しとなり小幅下落となりました。欧州では、好調なオフィス需要を受けたドイツが堅調でしたが、一方で商業施設リート中心にオランダが軟調に推移しました。アジア・オセアニアでは、好調な業績期待を反映した商業施設リート中心に、香港やシンガポールが堅調に推移しました。

（先進国債券）

先進国債券市場では、金利はおおむね上昇しました。前半は材料に乏しく、先進国債券市場の金利は小動きとなりました。後半に入ると、日銀が大規模な金融緩和による副作用を軽減するため長期金利の上昇を容認するとの観測が高まり、先進国債券市場の金利は上昇しました。

（新興国債券）

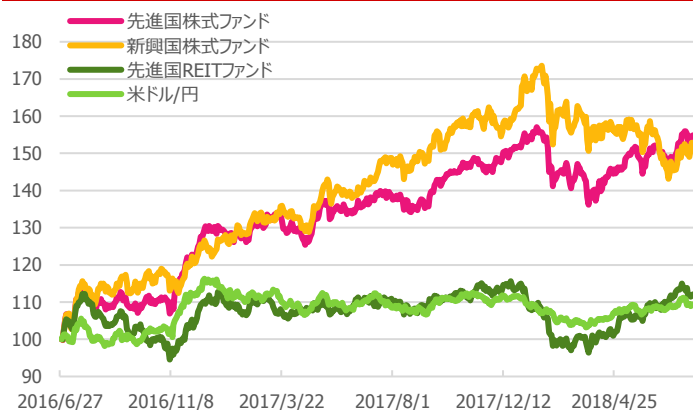
米ドル建て新興国債券に関しては、スプレッド（米国債との利回り格差）はおおむね縮小傾向となりました。米中の貿易摩擦関連の材料が続いたものの、米ドル高による新興国からの資金流出懸念がやや後退したことなどが、スプレッドの縮小要因となりました。南アフリカでは、インフレ率が市場予想を下回ったことや中国からの多額の投資を受けることが発表されたことを受け、スプレッドは縮小しました。ブラジルでは、大統領選挙について市場寄りの候補者への期待が高まったことなどが、スプレッドの縮小要因となりました。トルコでは、中央銀行が市場の予想外に政策金利を据え置いたことなどを背景に、スプレッドは拡大しました。

（為替）

為替市場では円安となりました。前半は、株価が上昇するなど市場のリスク選好度が強まったことから、円安となりました。しかし後半に入ると、日銀が長期金利の上昇を容認するとの観測から、円高が進みました。

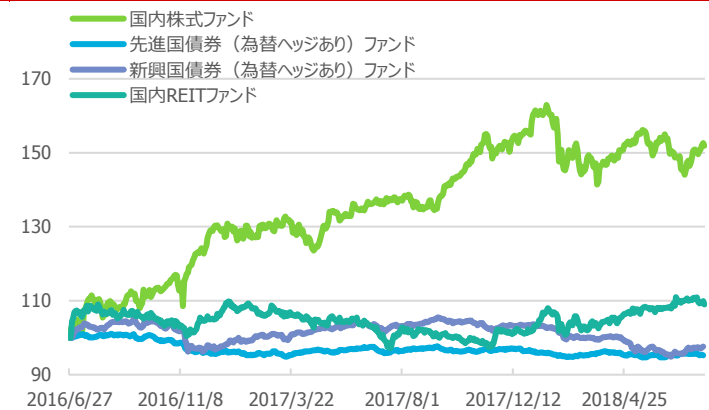
新興国通貨は、通貨によってまちまちの動きとなりました。中国人民銀行が人民元の中心レートを大幅に引き下げたことから人民元は下落しました。大統領が市場の信任を受けていた財務相を交代させたことからトルコ・リラも売られました。一方、NAFTA（北米自由貿易協定）暫定合意が近いという見通しでメキシコ・ペソが、中国の貿易摩擦に対応するための景気対策が資源国に有利という見方で南アフリカ・ランドやブラジル・レアルが買われました。円は対米ドルで、リスクテイクの動きが強まったことで円安となりました。結果として円は対新興国通貨全体では下落しました。

組入ファンド（為替ヘッジなし）と為替の価格の推移



※ファンド設定日を基準として指数化しています。

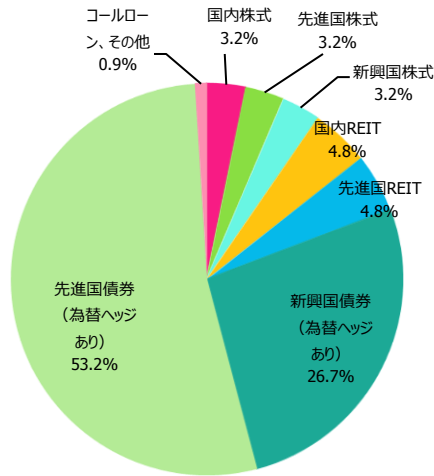
組入ファンド（為替ヘッジありおよび国内資産）の価格の推移



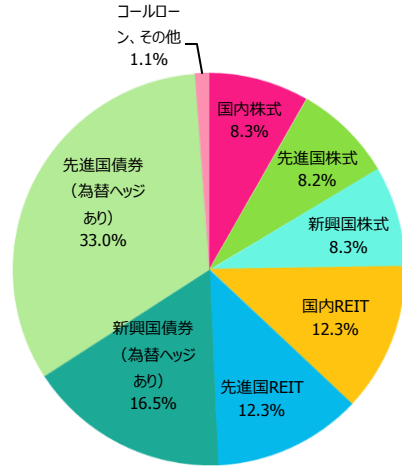
「各コースの資産・通貨別構成と基準価額の比較」

資産別組入ファンド比率（純資産比）

安定タイプ



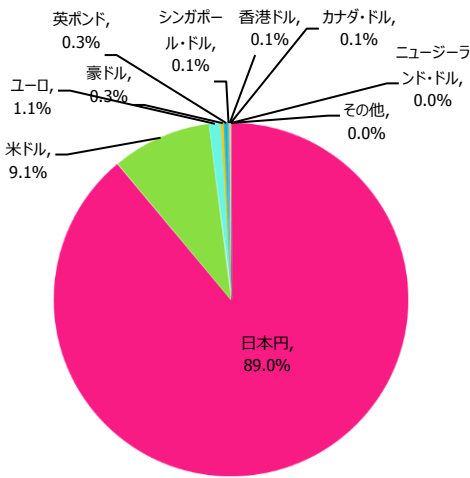
成長タイプ



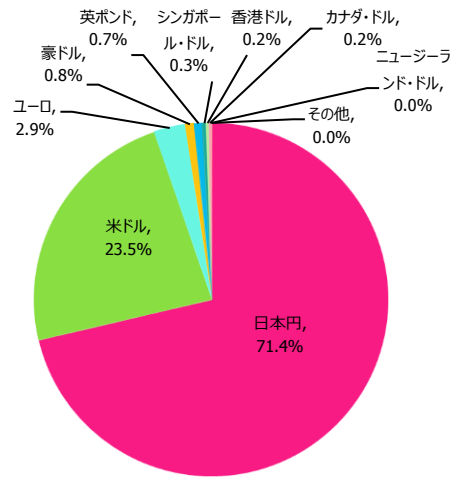
※比率の合計が四捨五入の関係で100%にならないことがあります。

通貨別構成（純資産比）

安定タイプ



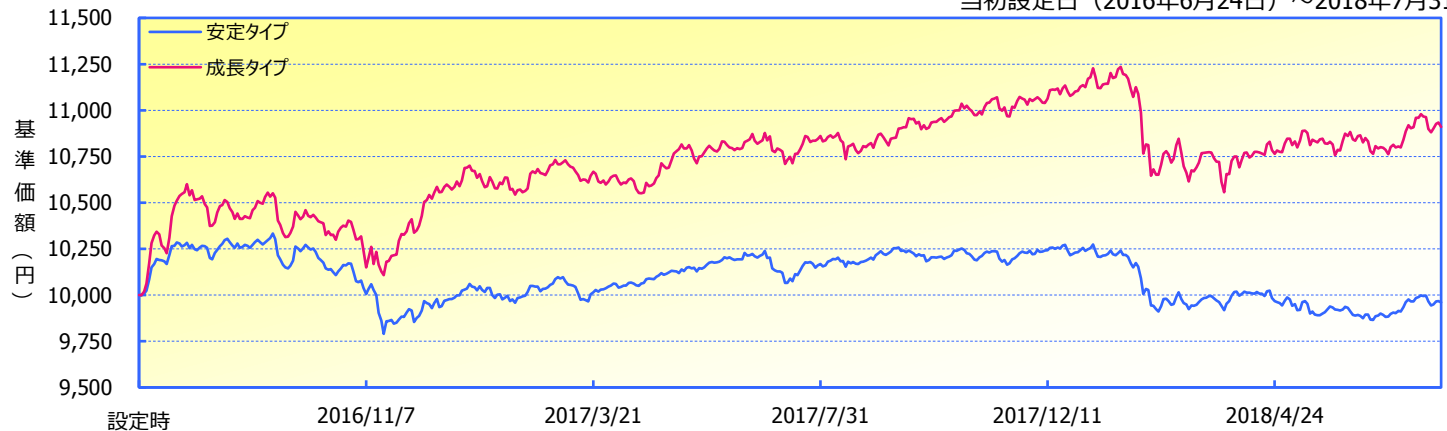
成長タイプ



※大和投資信託のデータを基にワイエムアセットマネジメントが計算しています。
 ※比率の合計が四捨五入の関係で100%にならないことがあります。
 ※為替ヘッジ付外債は、日本円に分類しています。

基準価額（分配金再投資）の比較

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。
 当初設定日（2016年6月24日）～2018年7月31日



※「基準価額（分配金再投資）」は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。
 ※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用（信託報酬）は控除しています（7ページ目の「ファンドの費用」をご覧ください）。
 ※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

「ファンドの目的・特色」

ファンドの目的

- 内外の債券、株式および不動産投資信託証券（リート）に投資し、信託財産の成長をめざして運用を行ないます。

ファンドの特色

1. 複数の投資信託証券への投資を通じて、主として内外の債券、株式および不動産投資信託証券（リート）に投資します。
2. 各資産への投資比率が異なる「安定タイプ」と「成長タイプ」の2つのタイプから選択できます。
3. 山口フィナンシャルグループの運用会社であるワイエムアセットマネジメント株式会社がファンド運用を行ないます。
4. 内外の債券、株式およびリートを実質的な投資対象とする複数の投資信託証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。

- ・各ファンドの略称としてそれぞれ次を用いることがあります。
 YM アセット・バランスファンド（安定タイプ）：「安定タイプ」
 YM アセット・バランスファンド（成長タイプ）：「成長タイプ」
- ・各ファンドの総称を「YM アセット・バランスファンド」とします。

※詳しくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

「投資リスク」

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

「価格変動リスク・信用リスク（株価の変動、公社債の価格変動、リートの価格変動）」、「為替変動リスク」、「カントリー・リスク」、「その他（解約申込みに伴うリスク等）」

※新興国には先進国とは異なる新興国市場のリスクなどがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※詳しくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。

「ファンドの費用」

お客さまが直接的に負担する費用		
購入時手数料	ありません。	
信託財産留保額	ありません。	
お客さまが信託財産で間接的に負担する費用		
運用管理費用 （信託報酬）	運用管理費用の総額は、毎日、信託財産の純資産総額に対して次に掲げる率	
	安定タイプ	成長タイプ
	年率 1.107%（税込）	年率 1.215%（税込）
投資対象とする 投資信託証券	年率 0.2052%（税込）～年率 0.324%（税込）	年率 0.2052%（税込）～年率 0.324%（税込）
実質的に負担する 運用管理費用	年率 1.380%程度（税込）*	年率 1.482%程度（税込）*
その他の費用・ 手数料	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。 ※「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額を示すことができません。	

*実際の組入状況等により変動します。

※手数料等の合計金額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。また、上場不動産投資信託は市場価格により取引されており、費用を表示することができません。

※詳しくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご覧ください。

「当資料のお取り扱いにおけるご注意」

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするためにワイエムアセットマネジメント株式会社により作成されたものです。
- 当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者のみなさまの実質的な投資成果を示すものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。
- 分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

販売会社等についてのお問い合わせ

- ▶ ワイエムアセットマネジメント株式会社
083-223-7124（営業日の9:00～17:00）

当社ホームページ

- ▶ <http://www.ymam.co.jp/>

「販売会社」

販売会社（業態別、50音順） （金融商品取引業者名）	登録番号	加入協会		
		日本証券業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	
株式会社北九州銀行	登録金融機関	福岡財務支局長（登金）第117号	○	○
株式会社もみじ銀行	登録金融機関	中国財務局長（登金）第12号	○	○
株式会社山口銀行	登録金融機関	中国財務局長（登金）第6号	○	○
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長（金商）第8号	○	

上記の販売会社については今後変更となる場合があります。また、新規のご購入の取り扱いを行っていない場合がありますので、各販売会社にご確認ください。